

キリスト教会の日本社会への適応

東北・関東地方の教会墓地を中心に

Adaptation of Japanese Christian Churches to Japanese Society:
Focusing on Church Graveyards in Kanto and Tohoku Area

川又俊則

- ①問題の所在
- ②死者儀礼について
- ③教会墓地の多様な実態
- ④小 括

【論文要旨】

筆者は日本のキリスト教研究において、いまだ実証的な研究が十分と言えない死者儀礼に関する調査を進めている。死者儀礼のなかでも仏壇保持率などの議論はあるが、本稿では東北地方・関東地方の伝統的教派における教会墓地に焦点をあてる。教会墓地を観察することで、キリスト教の地域社会への制度的定着を見ていくのである。

教会墓地は形態において、個別墓・共同墓・納骨堂に分類できる。それぞれに問題点があるものの、各教会はいろいろな対処法を取っている。教会墓地は設置場所でも分類できる。本稿では、教会敷地内・キリスト教霊園・公営霊園という三つに区分し、それぞれ複数の事例を扱う。

決して多くはないが、教会敷地内に納骨堂を保持している教会もある。半地下式の納骨堂を教会堂へ向くように設計した東北地方の教会や、周辺住民の理解を得て敷地内に納骨堂を建設した東京都内の教会もある。一方、キリスト教信徒専用の墓地「キリスト教霊園」も、青森・岩手・神奈川・千葉などの各県で、郊外に造成されている。超教派で複数の教会が共同で管理するところや、一つの教会が管理するところがある。本稿では千葉県のアザラシ霊園の実態を詳しく見ていく。さらに、公営・民営の霊園や寺院墓地の一角など、いわゆる共葬地に教会墓地を建設する教会もある。主要教派の幾つかの教区は、公営霊園内に教区墓地を設けている。

これらの教会墓地は、いずれも信徒たちの動向を考え、教会としての死者儀礼を提示する意味を持つと言えるだろう。だがそれらを利用する信徒たちは、自らの事情を優先させつつ行動している。信仰の表現としても墓地は重要だが、教会墓地を観察する限りにおいて、信徒たちは、信仰の継承以上に墓地自体の継承を重視している様子がうかがえるのであった。

キーワード：死者儀礼，教会墓地，信仰の継承，キリスト教霊園，適応